

## VOICE

障登PT 山下 宣郎（大阪たつ子勤労者山岳会）

### デフリンピック

今年 9 月にオーストリアで開催される国際ろう者スポーツ委員会の総会で、東京が 2025 年の夏季デフリンピックの開催地に正式決定しました。

デフリンピック（Deaflympics）とは、「Deaf」は英語で「きこえない人」という意味です。ろう者（Deaf）とオリンピック（Olympics）を合わせた造語で、「ろう者の五輪」、「聴覚障害の五輪」とよばれています。

オリンピックとパラリンピックと同じように 4 年 1 度、夏季大会と冬季大会が 2 年ごとに交互に開催されます。

競技ルールはオリンピックと同じルールですが、きこえない選手のための視覚的保障がなされた協議環境があることが、デフリンピックの特徴です。

視覚的保障って何？と思う人が多いかもしれませんが、ここで解説します。

音や審判の合図がきこえないという、競技上、選手にとって不利な状況を、視覚的に補うことです。

きこえない選手はスターターの音や審判の笛がきこえないために、プレーする上で、大きなハンデとなってしまいます。そのためフラッシュランプや旗などで競技上に必要な音声や審判の合図を知らせるなど、視覚的に情報が保障された競技環境が必要になります。

競技種目はオリンピックのようには及びませんが、世界共通の人気スポーツ（例えば、陸上、水泳、サッカー、バレーボール、バスケットボールなど）がほとんどメインで、20 競技があるようです。

デフリンピックの歴史が古く、夏季大会の第 1 回は 1924 年（大正 13 年）にフランスで、冬季大会は 1949 年（昭和 24 年）オーストリアで開催されました。ちなみに 2025 年に東京で開催される夏季大会は 25 回目の開催です。1960 年に第 1 回夏季大会が開かれたパラリンピックよりも歴史は古いですが、世界的に「デフリンピック」の認知度はとても低いです。そのため、きこえない選手やスタッフは世界大会への出場や練習などの資金繰りに苦勞し、練習やデフリンピックに参加する際に職場の理解が得られず休暇を取得しにくく、といった苦しい立場に置かれているようです。

皆さん、ぜひデフリンピックを応援してあげてください。



「デフリンピック マーク」  
「手話言語」「ろう文化」「結束と継続」といった  
強いメッセージを表現しています。  
またロゴマークの中央は「目」を表し、  
ろう者が視覚中心の生活を送っていることを  
示しています。

### 山の仲間たちに感謝・・・

障登PTをたちあげて 5 年目でまだまだ道半ばではありますが、ここまで歩んでこられたのは、周りから多くの方たちにご支援をいただいたおかげです。この場をお借りして改めて感謝を申し上げます。

これからも、さらなる安心安全で、楽しく登山ができるように、さまざまな課題に取り組んでまいります。

引き続きご協力とご指導をよろしくお願いします。

☆今後の障登PT計画☆

#### 2022 年度 手話で学ぶ登山初級教室

- 第 6 回 11 月 8 日 読図座学
- 第 7 回 11 月 13 日 読図実技
- 第 8 回 1 月 22 日 雪山登山講座（実技）
- 第 9 回 2 月 5 日 雪山入門ハイキング



☆右記 QR コードよりアクセスして WEB で開催要項を確認の上、お申込みください。

以上

注釈）障登PTとは「障がい者の登山学校参加に向けてのプロジェクト会議」の略称